

平成 27 年 4 月 18 日

ロードマップが国民の理解を得るために

消費生活アドバイザー 秋庭悦子

前回のワーキンググループで御報告いただいた軽水炉安全技術・人材ロードマップの原子力学会案は、作成に携わった多くの方々のご尽力の成果があらわれた、大変素晴らしいものだったと思います。特に、多くの関係者の方々が関わりながらも、採点によって技術の優先順位をつけていただいたのは、画期的だったと思います。

ただし、現在の原子力学会案をそのまま国民に対して提示しても、優先順位付けを含めたご努力が意味のある形でご理解いただけるとは思いません。このため、以下の2つの観点からコメント申し上げます。

1. 「原子力の自主的安全性向上の取組の改善に向けた提言」への加筆について

繰り返しになりますが、原子力学会内で科学的なご議論を重ねられ、馴れ合いを避けるために技術課題の優先順位付けを行われたという取組自体は素晴らしいことと思います。しかし、工学的な知見のない方々からすると、このままの内容が提出されても、こうしたご努力の意味するところが伝わらないと思います。原子力の自主的安全性向上を実現するには、まさにワーキンググループにおけるこれまでの議論にあった通り、電力会社、メーカー等のみならず、科学的な観点から彼らをリードする立場にある学会の取組も極めて重要です。この学会の取組が、福島第一原子力発電所事故を受けた自主的安全性向上であり、かつそれを継続する旨を国民にご理解いただく必要があります。

このような観点から、下記①と②のような取組を、新たに学会に期待することとして「原子力の自主的安全性向上の取組の改善に向けた提言」の中に位置付け、是非提言すべきだと思います。

- ① 馴れ合いを排し、真に原子力安全の向上に資するため、躊躇なくロードマップの技術課題項目に優先順位を付けて示すこと
- ② 優先順位付けされたロードマップが、広く国内外の中立的な専門家のレビューを受けて改善されるものとなるよう、積極的に国内外へ情報を発信し、それを受けたコメントをローリングの中で反映すること

2. ロードマップの取りまとめを巡るプロセスに何を期待するか

ロードマップがこうした学会のご努力の下で、ワーキンググループとの間でしかるべきキャッチボールに基づいて作成されているというプロセス自体を、国民に対して広く示すということに意義があると思います。これが前回のワーキンググループの資料2「軽水炉安全技術・人材ロードマップについて（現時点での整理）」の意味するところだと思います。この資料は、国民に対して分かりやすく示そうとする意図が伝わってきますが、立地地域も含めた一般国民に理解していただくには、もっと改善の余地があるのではないかと思いますので、繰り返しになりますが、上記1. ①②の提言の趣旨を、当該資料にも反映することが必要だと思います。また、さらにわかりやすいものとするため、このワーキンググルー

プにおける議論の経緯を知らない人が読んでも何が書いてあるのかがわかるよう、このロードマップを作ることとなったきっかけ、ロードマップ取りまとめのプロセスにどのような効果を期待するのか、こうしたことが一通りわかりやすくなるように、ストーリー性のある説明を付記することが必要だと思います。

以上